

東北大 高等教育フォーラム

東北大学百周年記念会館川内萩ホールを会場に5月18日、第36回高等教育フォーラムが開催された。フォーラムは例年、春と秋の年2回開催しており、春のフォーラムでは高大接続・入試関連の企画を実施。今回は「大学入試政策を問う―教育行政と教育現場の『対話』―」をテーマとして開催された。

大野英男総長及び文部科学省高等教育局大野振興課大学入試室の平野博紀室長の挨拶による開会の後、国立教育政策研究所の浅田和伸所長が「教育の現場と政策と研究と―やはり『教育は現場が命』だ―」、東北大の倉元直樹教授が「大学入試のコンプライアンス―未履修、入試ミス、そして、コロナ対策―」と題して基調講演を行った。続いて、山形県立東桜学館中学校・高等学校の延沢恵理子教諭が「地方公立高校の現場から」、東京都立八王子東高等学校の宮本久也校長が「入試をめぐる行政と現場との対話―高校入試と大学入試を比較して―」と題して現状報告。

参加とオンライン参加によるハイブリッド方式で541名が参加した。その後、各種討論が行われた。

